

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2006年9月下旬から11月上旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月下旬は高位水準へ増加し、10月上旬頃ピークに達する。10月中旬から減少を始め、10月下旬以降は低位水準となる。
- (2) 漁場：9月下旬は、落石～釧路沖で漁場が持続する他、襟裳岬周辺でも散発的に漁場ができる可能性がある。10月上旬～下旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、落石～釧路沖の漁場が消滅し、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：9月下旬には低水準ながら漁場が形成される可能性がある。本格的な漁場形成は、10月上旬以降となり、10月中旬～下旬は中位水準で推移する。11月上旬から徐々に減少する。
- (2) 漁場：9月下旬には八戸～宮古沖において漁場が形成される可能性がある。10月上旬は八戸～宮古沖、10月中旬は三陸北部が主漁場となる。10月下旬には、漁場が三陸南部まで広がる。11月上旬は南部が主漁場であるが、三陸北部でも漁場が持続する。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月上旬～中旬は、来遊量が少なく、漁場ができて断続的である。10月下旬には、低水準ながらも本格的な来遊があり、11月上旬には中位水準へ増加する。
- (2) 漁場：10月上旬～中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が増加し始める10月下旬は、北部が主漁場となる。11月上旬には鹿島灘まで漁場が広がる。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位低下	中位低下	低位減少	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位増加	中位水準	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	断続的	低位増加	中位増加
	漁 場		北部	北部	北部	北部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年並みの低水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、期前半は非常に少なかったが、台風通過後の6日夜から急激に増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南東沖10～15海里付近から霧多布南20海里付近。漁場となった表面水温は、15～20℃と引き続き高い。台風通過前は小型船が主体で操業。1日夜は5～15トン程度漁獲できたが、2～4日夜は数トン程度と落ち込んだ。5日夜は台風による時化のため休漁。6日夜からは、小型船30～50隻と大型船が数隻操業。小型船で5～20トン程度、大型船で30～50トン程度漁獲した。

(3) 魚体

29～31cmモードの大型魚が主体。中型魚以下の魚の混じり具合は、1～3割程度。体重150g台が主体。